

スクールカウンセラーたより 10

卒業、そして進級おめでとうございます。

新しい世界へのスタートです。頑張ってもらいたいと思います。

ある中学生が、「春が一番好き、新しいことが始まる感じでワクワクする。」と言っていました。勿論、不安もあると思います。ただ、新しい世界への期待や、今までの自分をリセットし、成長していくことへの楽しみがあるようです。

新しい生活に向けて節目を付ける

新しいスタートを切るにあたって、春休みには次の学年ではどのように生活するかをゆっくり考える場を作りたいですね。

竹は節目があることで強さと柔軟性が出来上がり、しっかりとした竹になるそうです。

今までの学年の生活を振り返り、一つの節目を作り、それをふまえて次の学年をどう過ごすか、目標を作ることがしっかりとした成長に繋がるのだと思います。



今までのことを無かったことにしない

新しい世界に向けてリセットするためには、今までの自分を考え、これから何をしたら良いのかを考えることが大切だと思います。大切なのはどんなことがあったか、そのとき自分はどうしたかを自分自身でしっかり振り返ってみることだと思います。

様々な失敗もあったと思います。それを無かったことにするのではなく、失敗をふまえて、何をしたら良いのかを考えることが大切で、そこから判断力や思考力が身についてくるのだと思います。

「～であるべき」と大人が判断するのではなく「～と思うけど、君はどう考える？」とまずは自分で考える場を大切にしていけることがポイントだと思います。



道先案内人から伴走者へ

小さな時期は大人が愛情を基にしっかりと良いことやダメなことを教え、育てていくことは非常に大切だと思います。そこでしっかりと自分で判断できる基礎ができるからです。小学校でも1年生ぐらいまでは大人がしっかりと判断することが必要かもしれません。

そして2年生あたりからは自分で判断して行動できるように、大人は少し下がって子供の伴走者であることが大切になってくると思います。

「お父さんはこう思うけれど、君はどう思う？」と、方向を示しながらも、自分で考えていくことを大切にしていきたいです。その経験を通して自分で判断する力が付きますし、失敗した時にも修正していく力が付いてくると思います。



僕はダメな子？

ほとんどの親は一生懸命に子育てをしていると思います。人並みに育ててほしいと思い、いろいろ指示をするのは当然です。その為に「早くしなさい。遅れるよ！！」「何やっているの。今はその時間じゃないでしょ！！」などと、つつい強い言葉で子どもの行動を否定してしまうことも多くなることもあります。



それは、親として、「そうしないと困るのは君だよ」という思いからの言葉だと思っています。ただ、ときとして「早くできない子はダメな子だ」「時間を意識しない君はダメな子だ」というメッセージも繋がりがかねない言葉かけだということ意識しておくことも大切です。

カウンセラー自身も、自分でやらなければならないことがわかっていても、目の前のことが気になり、それができないことがあります。その言い訳として「今やろうとしていたのに・・・」というつぶやきになるわけです。そうならないために、やるべきことをメモしたり、ホワイトボードに時間を書いていたりなど工夫をしています。

「何やっているの」というメッセージの代わりに、子どもと相談して、やるべきことや時間をボードに書いておくなど、できるようになるための工夫を考えてみることも重要です。



「僕はダメな子ではなく、僕は ～ があれば自分でできる。」という思いにつなげることも大切だと思っています。

ごっこ遊びは大切な遊び

小さい子は良く「ごっこ遊び」を行います。ヒーローになったり、お母さんになったりなど、でも、最近の子はあまりやらないかもしれませんね。

「ごっこ遊び」は心を育てるうえでとても大切な遊びだと言われます。役割を変えることで、違った立場の人はどう考えるか、この状況では他の人はどのように考えるか、違った考えの人とどう折り合いをつけるか等を判断しながら演じるわけで、判断力や応用力を育てていく内容でもあります。

低学年などは「ごっこ遊び」を、家族で行っても良いかもしれませんね。

高学年では、物語づくりなども、心を育てる内容につながっていくかもしれません。

最後に・・・

ある中学生から、「どんなに話が苦手な人でも、一生懸命に話せば必ず相手に思いは伝わると思う。」というメッセージをもらいました。

人はいつもうまくいくとは限りません。不器用な人もいます。そこで問われるのはうまくいなくても、へこたれずに前向きに頑張れるかということだと思っています。

勿論、つらいときは休むことも必要です。ただ頑張っている姿はきっと誰かが見ていてくれます。だから休みながらも前向きに頑張ることが大切というメッセージだと思っています。中学生から教えてもらいました。

